

アユのグルギア症に関する研究 — II

防除法の検討 (1) フマジリン経口投与の効果

高 橋 誓 江 草 周 三
(滋 賀 県 水 産 試 験 場) (東 京 大 学)

魚 病 研 究 11 (2) (1976)

1972年から1975年にかけて、アユに寄生し被害を与えるGlugea plecoglossiの予防のため、サルファ剤、抗生物質等、原虫症に関与のある薬剤9種類について検討を加えた。1973年に本虫の人為感染方法を検討し、予防薬剤の決定のための試験方法を確立した。1974年に抗生物質で抗アメーバ剤のfumagillinの顕著な効果が判明したので、1975年にはその投薬時期、投薬量、投薬期間の検討を加えた。その結果、ある投薬時期にfumagillin 12.5 mg/kg/dayを10日間投薬するか、または50 mg/kg/dayを3日間投薬することにより、G. plecoglossiの感染を阻止しうることが判明した。